

## 問 中学生用ヘルメットの見直しは

### 答 令和8年度から新型導入予定

**問** 現在の中学生用ヘルメットは、安全性に優れる一方、工事用ヘルメットに似た見た目から、登下校以外では着用しにくいとの声もある。一般的なヘルメットの方が通気性も良く、制服にも合い、日常的にかぶりやすい印象を受ける。先進地域では複数のデザインから選べる制度も導入されており、本村でも、生徒がかぶりたいくなるヘルメットの導入や選択肢を広げる工夫が必要ではないか。また、事故再現型の体験を通じた安



新型ヘルメットのイメージ図

**答** スポーツタイプや街乗り向けのヘルメットは軽量で通気性も良く、休日にも着用しやすいため、着用促進が期待できる。令和8年度からのデザイン変更を検討しており、選定には教員だけでなく生徒の意見も取り入れる。生徒も選択に関わることは着用率向上のためにも有効だと考える。体験型の交通安全教育については、他自治体の事例を調査し、本村に適した形の導入を検討する。



新政とうかい  
みやもと しょうた 議員

## 問 除去土壌処分事業の進捗は

### 答 除去土壌埋設試験等で効果を実証

**問** 本村における除去土壌処分実証試験事業の進捗は。

**答** 原子力機構・原子力科学研究所敷地内において福島第一発電所事故に伴う除去土壌の表面線量や周辺放射能濃度の測定、除去土壌埋立作業中と作業後の浸透水への溶出試験、草木等の除染廃棄物から分別した除去土壌の保管管理などを実施した。その結果、除去土壌の埋立作業に伴う被ばく線量が年間1ミリSvを下回ることで、覆土・散水などが作業員への被ばく対策に有効であ



環境省・関連自治体による草木等除染廃棄物からの除去土壌分別作業の視察

ること、埋立作業中から埋立後において除去土壌の飛散・流出、地下浸透などによる周辺環境への影響が見られないことを確認した。本事業の成果は、環境省の除去土壌処分に係るガイドラインに反映され、今後、福島県外における除去土壌処分に活用される。

**問** 今後の事業計画は。

**答** 策定されたガイドラインに基づき、除去土壌の維持管理を伴う埋立処分に向け、環境省および原子力機構との調整を進める。



新政とうかい  
まつえ ひであき 議員